

平成28年度 後期国際競技会派遣選手選考コンバインドテスト要項

1. 期日：平成28年12月11日（日）降雪降雨決行
2. 場所：長野運動公園総合運動場 陸上競技場（メイン競技場）
〒381-0038 長野市大字東和田 632 TEL026-249-0111
3. 主催：公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟（以下「日本連盟」という。）
4. 実施要項：
 - (1) 種目
 - ・30m加速走タイム計測
 - ・立ち幅跳び記録計測
 - (2) 試技順
 - ・受付時にドロー（抽選）を行い決定する。
 - ・各種目での試技順の変更は行わない。
 - (3) 出場選手義務
 - ・日本連盟への参加申し込み。
 - ・平成28年度日本連盟スケルトン競技選手登録。
 - ・傷害保険へ加入（記録会当日が保険対象日であるか確認のこと）。
 - ・ドーピング規則厳守。
 - ・未成年者の場合は、保護者の承諾書提出。
 - (4) 出場資格
14歳以上の日本連盟スケルトン競技選手登録者
 - (5) 参加料
200円（競技場使用料）※各自券売機で購入し入場下さい。
 - (6) 申込方法
日本連盟ホームページにある参加申込書に必要事項を記入の上、メール(bobskelu@topaz.ocn.ne.jp)にてお申込み下さい。
 - (7) 申込締切
平成28年12月8日（木）12：00
 - (8) 日程

・12月11日（日）	12：00	受付開始・試技順ドロー（抽選）
	12：10	開会式・競技説明
	13：30～13：45	30m加速走測定 1回目
	13：45～14：00	30m加速走測定 2回目
	14：20～14：35	立幅跳び測定 1回目
	14：35～14：50	立幅跳び測定 2回目
	15：10	閉会式

*競技の進行状況、その他により、日程を変更することがある。その場合には、すみやかに選手に通達する。
 - (9) 測定種目説明
【測定1：30m加速走】
 - ・全天候型陸上競技トラック直線レーンを使用し実施する。

- ・0m（スタート）、30m（フィニッシュ）それぞれの地点にタイム計測用光電管（スタート地点光電管地上高30cm、フィニッシュ地点光電管地上高70cm）を設置し、30m間のタイム計測を行う。
- ・計測は1/100"まで測定する。
- ・各選手の試技可能回数は、2回とする。試技の1回目は必須とし、2回目は任意とする。2回目をキャンセルする場合は、1回目終了後2回目開始前までに速やかに通告係に知らせること。
- ・使用するシューズについては、陸上競技用スパイクシューズ、もしくはランニングシューズとする。
- ・陸上競技用スパイクシューズは、ピンの長さ9mm以下とし、ピンの本数は片足11本以内とする。
- ・ランニングシューズは、グリップを有利にするための突起や装置が付いてはならない。
- ・スタート形式は、スタンディングスタートとする。スターティングブロックやその他足置きは使用できない。
- ・選手は、スタートの光電管から後方1m以内に前足の最後部が入るようセットしなくてはならない。後ろ足は1mを超えてセットしても良い。試技を開始する際には、1m以内にセットした前足を宙に浮かしてはならない。
- ・選手は、通告係のコール（試技開始の合図）があつてから30秒以内に試技を開始（スタートの光電管を切る）しなければならない。
- ・試技は、女子1回目、男子1回目、女子2回目、男子2回目の順に行う。
- ・1回目と2回目間のインターバルは設けない。
- ・試技中なんらかの理由により光電管が作動しなかった場合は、その試技回の全選手の測定が終了した後に再度試技を行う。
- ・タイム計測レーンでの練習時のタイム計測は実施しない。
- ・通告係のコール（試技開始の合図）があるまで各自ウォームアップを実施出来る。

【測定2：立ち幅跳び】

- ・陸上競技場走り幅跳びピット（砂場）を使用し実施する。
- ・両足を軽く開いて、ピット（砂場）の端が使用出来る場合にはそこに、端が使用できない場合には足置き用の板を設置しその上に、両足の拇子球付近が掛かるように立つ。助走を付けずに腕や身体で十分反動をつけてから、両足で同時に前方へ踏み切り、出来るだけ遠くに跳躍する。身体の一部が砂場に触れた最も踏み切り位置に近い地点と、両足を掛けた踏み切り位置の両足の midpoint となる端とを結ぶ直線の距離を計測する。
- ・使用するシューズは陸上競技用スパイクシューズ、もしくはランニングシューズとする。
- ・陸上競技用スパイクシューズは、ピンの長さ9mm以下とし、ピンの本数は片足11本以内とする。
- ・ランニングシューズは、グリップを有利にするための突起や装置が付いてはならない。
- ・選手は、通告係からコール（試技開始の合図）があつてから30秒以内に試技を開始しなければならない。
- ・各選手の試技可能回数は、2回とする。試技の1回目は必須とし、2回目は任意とする。2

回目をキャンセル場合は、1回目終了後2回目開始前までにすみやかに通告係に知らせること。

- ・選手試技順は、測定1（30m走）と同じ順に行う。
- ・1回目と2回目の間のインターバルは、設けない。
- ・測定は1cm単位で行い、以下切捨てとする。
- ・練習時間内の試技用ピットでのウォーミングアップは可能である。

【補足】

- ・測定は、30m走1回目（女子、男子）→30m走2回目（女子、男子）→立ち幅跳び1回目（女子、男子）→立ち幅跳び2回目（女子、男子）の順に行う。
- ・測定種目間のインターバルは、基本、最終競技者の試技終了後から20分間とする。但し、状況によって時間を変更する場合がある。その場合には、すみやかに選手に通知する。
- ・記録会の全ての判断はスケルトン強化部長またはその代理が行う。

(9) その他

- ・本記録会で生じた事故、怪我、その他について、主催者は一切責任を負わない。
- ・本記録会結果は、2016-2017 スケルトン競技後期国際競技会派遣選手選考に反映される。

5. 問い合わせ

(公社)日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟 事務局

TEL026 - 235 - 6260 Email:bouskelu@topaz.ocn.ne.jp